

保健医療福祉系大学学生における規範意識

—看護学科の特徴—

平野 裕子¹⁾、新井 恵²⁾、山本 英子¹⁾、井上 和久³⁾Normative Consciousness of Health and Social Services Students
—Features of the Department of Nursing—

Yuko Hirano , Megumi Arai , Eiko Yamamoto , Kazuhisa Inoue

要旨

【目的】保健医療福祉系大学学生の規範意識の現状とともに、看護学科学生の規範意識の特徴を明らかにし、高等教育における規範意識教育のあり方を検討することを目的とした。【方法】保健医療福祉系大学2年次生345名を対象に質問紙調査を実施した。分析は、基本統計量およびMann-Whitney U検定を用いた。【結果および考察】回収247部（回収率71.6%）のうち、所属学科についての回答があった244部（70.7%）を有効回答とした。学生はマナーやモラルに配慮しているにもかかわらず、60～70%が交通違反などの逸脱行為を体験し、行動については、どちらともいえないと判断する傾向にあった。看護学生においては公共性に関する反社会的行為を悪いと認識していても大学生活などにおいては逸脱行為がみられた。職業的規範意識の獲得の前に外部圧力のない反社会的規範行為に対する教育の充実が示唆された。

キーワード：規範意識、大学生、保健医療福祉、看護学生

Key words : social norm, University student, health and social services, nursing students

1. 諸 言

規範とは、手本、模範、判断・評価または行為の抛るべき基準である¹⁾。わが国における規範意識には社会変動による社会的要因と個人の認知発達による心理的要因があり、生育環境により個人の意識に差が生じるが、一般に行為自体に善悪の規定がある「道徳領域（モラル）」や文化的な一様性を持つ「慣習領域（ルール・マナー）」は加齢に伴い、自己決定の判断を発達させるといわれている²⁾。

近年、若者の傾向として公共の場で基本的マナーやルールが守れないなど迷惑行為、万引き・強盗などの犯罪行為、ひきこもり、不登校、暴力行為などの問題行動がマスメディアで取り上げられる機会が多い。この背景の一因には、高校生を中心とした青少年の規範意識の希薄化が指摘されることも少なく

ない^{3,4)}。

規範意識に関する実態調査は、全国各地の小・中・高校などで広く実施されている⁵⁻⁷⁾。大学生の規範意識については、所属大学や男女間による違い、授業中の私語、メール、twitterにおける行動規範などの報告⁸⁻¹⁵⁾がある。しかし、保健医療福祉系学生を対象とした研究はほとんどない。筆者らは、保健医療福祉系大学生の傾向として、保健医療福祉系大学1年次生の規範意識は、問題行動や危険行動経験者は少数であるが約7割に交通ルール違反経験があること、未成年学生と限定した場合、飲酒経験者は家族に関するセルフエスティームが低く、交通ルールを守らない等の特徴があることを明らかにした¹⁶⁻¹⁸⁾。そこで本研究では、保健医療福祉分野の専門家を目指して学習をはじめて1年経過した学生を対象に、規範意識の現状を明らかにすることを目的とした。

1) 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科

2) 埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科

3) 埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科

1) Department of Nursing, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University

2) Department of Health Sciences, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University

3) Department of Physical Therapy, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University

原稿受付日：2014年10月15日

また、保健医療福祉分野の中でも療養生活の世話を通して、患者の生活に寄り添う看護職を目指す学生の規範意識の特徴を明らかにし、高等教育における規範意識教育のあり方を検討することを目的とした。

2. 用語の操作的定義

規範意識：規範意識とは、「家族や学校、社会における対人関係において、多くの者によって共有されている伝統・慣習的な言動についての基準や習慣等に関する意識」^{8,9)}、「ある対象について価値判断を下す際、その前提となっていく価値を価値として認める意識」¹⁹⁾と定義されている。本研究では規範意識を、現在の社会組織やそのなかで求められる規範意識のうち、「大学生活・慣習・家庭生活・法律」についての行動基準や習慣に関する自分自身の体験および行動への認識とした。なお、規範意識の「高い」「低い」は、ある事柄の価値判断を下す際にその価値を価値として認める程度の高低とする。

3. 方法

1) 調査期間

平成24年4月

2) 調査対象者

保健医療福祉系大学に所属する2年次生345名。

3) 調査方法

質問紙調査。調査対象者が一斉集合する機会がないことから2週間の期間を設け、その期間内において各学科および専攻単位で調査票を配付し、回収は留置法とした。

4) 調査内容

(1) 基本属性

年齢、所属学科、同居家族、飲酒経験、喫煙経験。

(2) 規範意識に関する項目

5つのカテゴリー（大学生活40項目、慣習22項目、家庭生活16項目、法律17項目、その他1項目）の計96問の質問項目を設定した。回答方法は、その項目に自分自身の体験（以下、自己体験）がある場合には「あり」に丸を記入するよう回答を求めた。さらに、同様の項目において、自分の考えにもっともあてはまる内容を選択し、回答を促した（以下、行動への認識）。行動への認識については「とても良い（1点）」「やや良い（2点）」「どちらともいえない（3点）」「やや悪い（4点）」「とても悪い（5点）」の5件法とした。規範意識に関する項目は、久世ら⁸⁾の調査報告およ

び大学生活で守るべき事項が掲載されている調査対象者所属大学の学生便覧にある記載内容をもとに、研究者間で検討し、項目を抽出した。さらに抽出した項目の関連性を検討し5つのカテゴリー「大学生活」、「慣習」、「家庭生活」、「法律」、「その他」に分類した。

5) 分析方法

統計解析にはIBM SPSS Statistics 21.0を用いて、基本統計量を算出した。また、看護学科学生（以下看護学科）と看護学科を除く保健医療福祉系学生（以下看護学科以外）の2群に分け、「自己体験」「行動への認識」の傾向を確認したのち、「行動への認識」については、Mann-Whitney U検定を行い、有意水準は5%とした。

6) 倫理的配慮

埼玉県立大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号23065）。調査対象者への説明は、本研究の目的、方法、匿名性の保持、データ管理・公開の他、本研究への参加・協力はあくまで任意であり、成績とは一切関係しないこと、参加協力しない場合において、不利益を生じることはなく、途中辞退や拒否権があることなど口頭および文書にて行った。その上で調査協力が得られる場合にのみ回答を依頼し、回答をもって最終同意とみなした。

4. 結果

回収247部（回収率71.6%）のうち、所属学科についての回答があった244部（70.7%）を有効回答とし、無回答を除いて集計した。

1) 対象者の基本属性

所属学科の内訳は、看護学科44名（18.0%）、理学療法学科41名（16.8%）、作業療法学科39名（16.0%）、社会福祉学科36名（14.8%）、健康開発学科健康行動専攻16名（6.6%）、健康開発学科検査技術専攻40名（16.4%）、健康開発学科口腔保健専攻28名（11.5%）であった。

年齢は、20歳未満204名（84.7%）、20～24歳34名（14.1%）、25歳以上3名（1.2%）であり（無回答3名を除く）、看護学科においては20歳未満38名（86.4%）、20～24歳6名（13.6%）であった。

家族形態については、両親と同居136名（57.2%）、1人暮らし100名（42.0%）、兄弟姉妹と同居2名（0.8%）であり（無回答6名を除く）、看護学科においては両親との同居27名（62.8%）、1人暮らし15名（34.9%）、兄弟姉妹と同居1名（2.3%）であった（無回答1名を除く）。

アルバイト経験者は210名（87.5%）であり（無

回答4名を除く)、看護学科においては35名(79.5%)であった。

飲酒経験がある者は113名(48.1%)であり(無回答9名を除く)、そのうち未成年者86名(36.6%)であった。看護学科においては、飲酒経験者は21名(47.7%)、そのうち未成年者17名(38.6%)であった。

喫煙経験者は5名(2.1%)、うち未成年者2名であったが看護学科においては、喫煙経験者がいなかった。

2) 自己体験

(1) 大学生活(表1-1)

「1. 友人にあいさつをする」「13. 提出物(レポート等)を期限内に提出する」「15. 演習時に決められた服装・身だしなみで参加する」の3項目において全員が、「2. 教職員にあいさつをする」「5. 授業で使用する教科書を持って来る」「10. 授業に興味を持って臨む」「21. 自分のロッカーに鍵をかける」など7項目において90%以上が「自己体験あり」と回答していた。一方で、「23. バイク置き場に自転車を止める」「26. 自家用自動車を構内もしくは大学周辺道路に路上駐車する」「39. 大学所有の物品を盗む」など9項目において、「自己体験あり」と回答した者は10%以下であった。

看護学科と看護学科以外を2群に分けたところ、「7. 授業中にメールをする」「9. 予習・復習をする」「29. 健康上問題ないのにエレベーターを使用する」など10項目において10%以上の開きがみられた。

表 1-1 大学生活における自己体験 その1

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
1 友人にあいさつをする	242	242	100.0%	44	100.0%	198	100.0%
2 教職員にあいさつをする	241	224	92.9%	40	93.0%	184	92.9%
3 授業を遅刻・早退する(体調不良時を除く)*	242	155	64.0%	32	72.7%	123	62.1%
4 授業を欠席する(体調不良時を除く)*	242	142	58.7%	28	63.6%	114	57.6%
5 授業で使用する教科書を持って来る	242	236	97.5%	43	97.7%	193	97.5%
6 授業中に私語をする*	241	188	78.0%	39	88.6%	149	75.6%
7 授業中にメールをする*	242	160	66.1%	36	81.8%	124	62.6%
8 授業中にメイクをしたり髪形を直したりする*	242	32	13.2%	8	18.2%	24	12.1%
9 予習・復習をする	241	197	81.7%	42	95.5%	155	78.7%
10 授業に興味を持って臨む	239	220	92.1%	41	95.3%	179	91.3%
11 授業にあまり集中できない	240	189	78.8%	35	83.3%	154	77.8%
12 グループワークに参加する	242	221	91.3%	44	100.0%	177	89.4%
13 提出物(レポート等)を期限内に提出する	242	242	100.0%	44	100.0%	198	100.0%
14 テストでカンニングをする*	242	3	1.2%	0	0.0%	3	1.5%
15 演習時に決められた服装・身だしなみで参加する	242	242	100.0%	44	100.0%	198	100.0%
16 教室にゴミを捨てる*	241	14	5.8%	1	2.8%	13	6.6%
17 廊下のごみを見つけたら拾ってゴミ箱に捨てる	242	111	45.9%	25	56.8%	86	43.4%
18 机などに落書きをする*	243	98	40.3%	19	43.2%	79	39.7%
19 飲食禁止の教室・実習室などで飲食する*	243	56	23.0%	15	34.1%	41	20.6%
20 授業で質問を積極的にする	241	43	17.8%	5	11.4%	38	19.3%
21 自分のロッカーに鍵をかける	242	225	93.0%	44	100.0%	181	91.4%
22 自転車は自転車置き場に止める	236	196	83.1%	37	90.2%	159	81.5%

表 1-1 大学生活における自己体験 その2

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
23 バイク置き場に自転車を止める*	237	11	4.6%	2	4.7%	9	4.6%
24 体育館に入る際は上履きに履き替える	242	234	96.7%	42	95.5%	192	97.0%
25 自家用自動車を通う*	241	18	7.5%	3	6.8%	15	7.6%
26 自家用自動車を構内もしくは大学周辺道路に路上駐車する*	240	4	1.7%	2	4.5%	2	1.0%
27 学内パソコン使用時、飲料水を机上に置く*	242	44	18.2%	12	27.3%	32	16.2%
28 部室の合鍵をつくる	241	2	0.8%	0	0.0%	2	1.0%
29 健康上問題ないのにエレベーターを使用する	242	96	40.0%	23	52.3%	73	36.9%
30 エレベーターは使用せず階段を使用する	242	238	98.3%	44	100.0%	194	98.0%
31 校則は学生便覧を熟読する	242	26	10.7%	3	6.8%	23	11.6%
32 学内で友達への悪口を言う*	241	42	17.4%	9	20.5%	33	16.8%
33 学内で先生の悪口を言う*	241	106	44.0%	23	52.3%	83	42.1%
34 学校行事(大学祭、スポーツフェスティバル、etc)に参加する	242	214	88.4%	41	93.2%	173	87.4%
35 学校行事(大学祭、スポーツフェスティバル、etc)に興味がない	241	58	24.1%	11	25.0%	47	23.9%
36 自治会活動に興味がある	241	34	14.1%	6	13.6%	28	14.2%
37 いじめをする*	242	6	2.5%	0	0.0%	6	3.0%
38 いじめをされる*	242	8	3.3%	0	0.0%	8	4.0%
39 大学所有の物品を盗む*	241	3	1.2%	0	0.0%	3	1.5%
40 教職員からの注意はあまり気にしない*	242	29	12.0%	5	11.4%	24	12.1%

*は逆転項目

大学生活に関する40項目の回答者数、体験ある者の実数および割合

(2) 慣習(表1-2)

「54. 約束の時間を守る」「60. 借りた物は必ず返却する」「62. マナーやモラルに配慮する」の3項目において90%以上が「自己体験あり」と回答していた。一方で、「45. 禁煙の場所で、喫煙をする」「50. インターネット上で他人を中傷する書き込みをする」「52. 出会い系サイトで知り合い実際に会う」など11項目において、「自己体験あり」と回答した者は10%以下であった。

看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、「42. 電車やバスなどの優先席で、高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児連れの人に席を譲る」「49. インターネット上でプロフィールを公開する」「57. 夜遊びをする」の3項目において10%以上の開きがみられた。

表 1-2 慣習における自己体験状況 その1

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
41 電車やバスなどの優先席付近で携帯電話での通話をする	239	19	7.9%	3	6.8%	16	8.2%
42 電車やバスなどの優先席で、高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児連れの人に席を譲る	240	182	75.8%	34	77.3%	148	61.7%
43 電車やバスなど公共の場で飲食をする	240	141	58.8%	29	65.9%	112	57.1%
44 電車やバスなど公共の場で化粧をする	240	18	7.5%	3	6.8%	15	7.7%
45 禁煙の場所で、喫煙をする	239	1	0.4%	0	0.0%	1	0.5%
46 禁煙区域以外での喫煙をする	238	2	0.8%	0	0.0%	2	1.0%
47 歩き煙草を注意する	238	7	2.9%	1	2.3%	6	3.1%
48 禁煙区域で喫煙している人に注意をする	239	3	1.3%	1	2.3%	2	1.0%
49 インターネット上でプロフィールを公開する	240	107	44.6%	26	59.1%	81	41.3%
50 インターネット上で他人を中傷する書き込みをする	240	1	0.4%	0	0.0%	1	0.5%
51 出会い系サイトに登録する	238	1	0.4%	0	0.0%	1	0.5%

表 1-2 慣習における自己体験状況 その2

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
52 出会い系サイトで知り合い実際会う	238	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
53 隣近所の人にあいさつをする	240	206	85.8%	37	84.1%	169	86.2%
54 約束の時間を守る	238	224	94.1%	42	95.5%	182	93.8%
55 道路にゴミを捨てる	238	16	6.7%	2	4.5%	14	7.2%
56 行列に割り込みをする	237	11	4.6%	2	4.5%	9	4.7%
57 夜遊びをする	238	124	52.1%	27	61.4%	97	50.0%
58 深夜番組をよくみる	237	134	56.5%	26	59.1%	108	56.0%
59 翌日の朝まで遊ぶ	237	142	60.0%	29	65.9%	113	58.5%
60 借りた物は必ず返却する	238	232	97.5%	44	100.0%	188	96.9%
61 よく物を借りる	238	84	35.3%	16	36.4%	68	35.1%
62 マナーやモラルに配慮する	237	234	98.7%	44	100.0%	190	98.4%

*は逆転項目

慣習に関する 22 項目の回答者数、体験ある者の実数および割合

(3) 家庭生活 (表1-3)

「63. あいさつをする」「64. 家庭のルールを守る」「65. 家の手伝いをする」など5項目において90%以上が「自己体験あり」と回答していた。一方で「74. 理由を偽って親からお金をもらう」「75. 無断で親のお金を持ち出す」など4項目において、「自己体験あり」と回答した者は10%以下であった。

看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、「71. 身体を動かすよう心がけている」の1項目に10%以上の開きがみられた。

表 1-3 家庭生活その他における自己体験状況

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
63 あいさつをする	239	234	97.9%	44	100.0%	190	97.5%
64 家庭のルールを守る	238	230	96.6%	42	95.5%	188	96.9%
65 家の手伝いをする	239	220	92.1%	42	95.5%	178	91.3%
66 手洗い・うがいをかかさない	238	169	71.0%	33	76.7%	136	69.7%
67 一日3食ご飯を食べる	238	188	79.0%	37	84.1%	151	77.8%
68 食事内容(バランス、量)に気をつけている	239	179	74.8%	35	79.5%	144	73.8%
69 家族を大切に(思う)	238	230	96.6%	43	97.7%	187	96.4%
70 自分の部屋の片づけは自分でする	238	225	94.5%	43	97.7%	182	93.8%
71 身体を動かすよう心がけている	239	170	71.1%	27	61.4%	143	73.3%
72 門限を守る	234	171	73.1%	31	72.1%	140	73.3%
73 親を無視する*	242	76	31.4%	16	36.4%	60	30.3%
74 理由を偽って親からお金をもらう*	241	22	9.1%	2	4.5%	20	10.2%
75 無断で親のお金を持ち出す*	241	6	2.5%	2	4.5%	4	2.0%
76 家出をする*	241	14	5.8%	2	4.5%	12	6.1%
77 親との約束を破る(暴言を吐く)*	241	76	31.5%	17	38.6%	59	29.9%
78 家族に暴力をふるう*	241	10	4.1%	3	6.8%	7	3.5%

*は逆転項目

家庭生活に関する 16 項目の回答者数、体験ある者の実数および割合

(4) 法律 (表1-4)

「87. 自転車で歩道を走行する」の1項目において90%以上が「自己体験あり」と回答していた。一方で「81. 原付バイク(二輪自動車)で信号無視をする」「82. 自動車で信号無視をする」「89. 携帯電話を使用しながら車の運転をする」「93. 道路でポイ捨てをする」「94. 人の物を盗む(自転車・教科書等)」「95. 万引きをする」など8項目において、「自己体験あり」と回答した者は10%以下であった。

看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、

「93. 道路でポイ捨てをする」の1項目に10%以上の開きがみられた。

表 1-4 法律における自己体験状況

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
79 徒歩で信号を無視する*	239	179	74.9%	31	70.5%	148	75.9%
80 自転車で信号を無視する*	240	173	72.1%	31	70.5%	142	72.4%
81 原付バイク(二輪自動車)で信号無視をする*	239	1	0.4%	0	0.0%	1	0.5%
82 自動車で信号無視をする*	239	12	5.0%	2	4.5%	10	5.1%
83 自転車で道路の右側を走る*	239	165	69.0%	32	72.7%	133	68.2%
84 自転車で2人乗りをする*	239	172	72.0%	34	77.3%	138	70.8%
85 自転車で並走する*	239	198	82.8%	39	88.6%	159	81.5%
86 傘をさして自転車に乗る*	239	174	72.8%	34	77.3%	140	71.8%
87 自転車で歩道を走行する*	239	219	91.6%	39	88.6%	180	92.3%
88 携帯電話を使用しながら自転車に乗る*	239	113	47.3%	24	54.5%	89	45.6%
89 携帯電話を使用しながら車の運転をする*	239	7	2.9%	2	4.5%	5	2.6%
90 人家や商店の壁に落書きをする*	239	1	0.4%	1	2.3%	0	0.0%
91 未成年者(20歳未満)が飲酒をする*	238	127	53.4%	24	54.5%	103	53.1%
92 未成年者(20歳未満)が喫煙をする*	239	6	2.5%	1	2.3%	5	2.6%
93 道路でポイ捨てをする*	240	21	8.8%	0	0.0%	21	10.7%
94 人の物を盗む(自転車・教科書等)*	240	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
95 万引きをする*	238	1	0.4%	1	2.3%	0	0.0%

*は逆転項目

法律に関する 17 項目の回答者数、体験ある者の実数および割合

(5) その他 (表1-5)

看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、「96. マナーやモラルは自分一人くらい守らなくてもいいと思う」に10%以上の開きがみられた。

表 1-5 その他における自己体験状況

項 目	回答数 N	全体		看護学科		看護学科以外	
		体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %	体験あり N	体験あり %
96 マナーやモラルは自分一人くらい守らなくてもいいと思う*	236	21	8.9%	8	18.2%	13	6.8%

*は逆転項目

その他に関する 1 項目の回答者数、体験ある者の実数および割合

3) 行動への認識

平均値が4点以上、または1点以下の項目はなかった。また、規範意識に起因する行動への認識のCronbach's α は全体0.964、大学生生活0.894、慣習0.881、家庭生活0.726、法律0.970であった。

(1) 大学生生活 (表2-1)

「23. バイク置き場に自転車を止める」など16項目が中央値3であった。看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、看護学科では「8. 授業中にメイクをしたり髪形を直したりする」「16. 教室にゴミを捨てる」「39. 大学所有の物品を盗む」など4項目が平均値4点以上であった。一方で、「1. 友人にあいさつをする」「2. 教職員にあいさつをする」など19項目で有意差がそれぞれみられた。

表 2-1 他者の行動への認識 大学生生活

項目	全体 平均値±標準偏差			行動への認識 N					平均値± 標準偏差	P値
				とても良い	やや良い	あまり悪い	やや悪い	とても悪い		
1 友人にあいさつをする	1.34±0.59	看護学科 N=43	37	5	1	0	0	1.16±0.43	0.020	
		看護学科以外 N=192	131	50	10	1	0	1.38±0.61		
2 教職員にあいさつをする	1.93±1.05	看護学科 N=43	29	3	6	4	1	1.72±1.16	0.047	
		看護学科以外 N=193	85	44	48	15	1	1.98±1.03		
3 授業を遅刻・早退する(体調不良時を除く)*	3.47±0.94	看護学科 N=42	0	1	13	23	5	3.76±0.70	0.035	
		看護学科以外 N=190	9	19	68	73	21	3.41±0.97		
4 授業を欠席する(体調不良時を除く)*	3.39±1.05	看護学科 N=42	1	2	13	18	8	3.71±0.92	0.020	
		看護学科以外 N=192	14	18	80	53	27	3.32±1.05		
5 授業で使用する教科書を持ってくる	1.62±0.85	看護学科 N=43	23	13	4	1	2	1.74±1.05	n. s	
		看護学科以外 N=190	111	49	28	1	1	1.59±0.80		
6 授業中に私語をする*	3.58±1.03	看護学科 N=43	0	2	15	14	12	3.84±0.90	n. s	
		看護学科以外 N=190	8	21	61	65	35	3.52±1.05		
7 授業中にメールをする*	3.53±0.95	看護学科 N=43	1	0	17	17	8	3.72±0.85	n. s	
		看護学科以外 N=189	1	0	17	17	8	3.48±0.97		
8 授業中にメイクをしたり髪形を直したりする*	3.39±1.32	看護学科 N=42	1	0	12	14	15	4.00±0.94	0.001	
		看護学科以外 N=189	30	20	56	39	44	3.25±1.35		
9 予習・復習をする	1.90±1.00	看護学科 N=43	28	9	4	1	1	1.56±0.93	0.007	
		看護学科以外 N=190	83	42	53	11	1	1.97±1.00		
10 授業に興味を持って臨む	1.79±0.90	看護学科 N=43	27	9	4	2	1	1.63±1.00	n. s	
		看護学科以外 N=190	86	56	42	6	0	1.83±0.88		
11 授業にあまり集中できない	3.22±0.91	看護学科 N=43	0	2	25	12	4	3.42±0.73	n. s	
		看護学科以外 N=189	8	28	92	44	17	3.18±0.94		
12 グループワークに参加する	1.80±0.86	看護学科 N=43	27	10	5	1	0	1.53±0.80	0.016	
		看護学科以外 N=190	79	63	45	1	2	1.86±0.87		
13 提出物(レポート等)を期限内に提出する	1.46±0.66	看護学科 N=43	32	7	3	1	0	1.37±0.73	n. s	
		看護学科以外 N=190	113	62	15	0	0	1.48±0.64		
14 テストでカンニングをする*	3.44±1.67	看護学科 N=43	4	2	5	4	28	4.16±1.34	0.002	
		看護学科以外 N=189	51	18	28	12	80	3.28±1.70		
15 演習時に決められた服装・身だしなみで参加する	1.49±0.74	看護学科 N=43	35	5	2	1	0	1.28±0.67	0.010	
		看護学科以外 N=190	112	56	20	1	1	1.54±0.75		
16 教室にゴミを捨てる*	3.39±1.51	看護学科 N=43	2	4	8	5	24	4.05±1.25	0.002	
		看護学科以外 N=189	39	25	37	27	61	3.24±1.53		
17 廊下のごみを見つけたら拾ってゴミ箱に捨てる*	2.03±1.10	看護学科 N=43	25	5	10	2	1	1.81±1.10	n. s	
		看護学科以外 N=189	81	31	62	11	4	2.08±1.09		
18 机などに落書きをする*	3.45±1.17	看護学科 N=42	0	1	14	18	9	3.83±0.80	0.042	
		看護学科以外 N=189	19	26	48	59	37	3.37±1.23		
19 飲食禁止の教室・実習室などで飲食する	3.47±1.33	看護学科 N=42	1	4	10	16	11	3.76±1.03	n. s	
		看護学科以外 N=188	24	22	48	38	56	3.41±1.38		
20 授業で質問を積極的にする	2.20±1.08	看護学科 N=42	16	8	17	1	0	2.07±0.95	n. s	
		看護学科以外 N=188	67	36	58	26	1	2.23±1.11		
21 自分のロッカーに鍵をかける	1.55±0.77	看護学科 N=42	34	8	0	0	0	1.19±0.40	0.001	
		看護学科以外 N=189	106	48	33	2	0	1.63±0.81		
22 自転車は自転車置き場に止める	1.63±0.85	看護学科 N=42	31	8	2	1	0	1.36±0.70	0.013	
		看護学科以外 N=186	100	48	35	1	2	1.69±0.87		
23 バイク置き場に自転車を止める*	3.07±1.31	看護学科 N=42	2	6	9	16	9	3.57±1.13	0.005	
		看護学科以外 N=186	36	29	59	32	30	2.95±1.33		
24 体育館に入る際は上履きに履き替える	1.56±0.80	看護学科 N=42	33	6	3	0	0	1.29±0.60	0.012	
		看護学科以外 N=188	109	45	30	4	0	1.62±0.83		
25 自家用自動車を通う*	2.72±1.03	看護学科 N=42	9	3	26	2	2	2.64±1.03	n. s	
		看護学科以外 N=184	31	25	100	18	10	2.73±1.03		
26 自家用自動車を構内もしくは大学周辺道路に路上駐車する*	3.44±1.37	看護学科 N=42	4	2	10	7	19	3.83±1.32	0.030	
		看護学科以外 N=185	29	11	63	30	52	3.35±1.36		
27 学内パソコン使用時、飲料水を机上に置く*	3.30±1.25	看護学科 N=42	2	3	14	15	8	3.57±1.04	n. s	
		看護学科以外 N=187	28	18	58	48	35	3.24±1.29		
28 部室の合鍵をつくる*	3.28±1.23	看護学科 N=42	3	2	15	7	15	3.69±1.22	0.014	
		看護学科以外 N=184	23	15	88	20	38	3.19±1.22		
29 健康上問題ないのにエレベーターを使用する*	2.99±1.04	看護学科 N=42	3	1	22	15	1	3.24±0.85	0.041	
		看護学科以外 N=185	24	26	87	34	14	2.94±1.07		
30 エレベーターは使用せず階段を使用する	1.66±0.87	看護学科 N=42	26	10	4	1	1	1.60±0.94	n. s	
		看護学科以外 N=186	101	50	32	1	2	1.67±0.85		
31 校則は学生便覧を熟読する	2.63±1.10	看護学科 N=42	8	9	18	4	3	2.64±1.12	n. s	
		看護学科以外 N=185	39	30	85	22	9	2.63±1.09		
32 学内で友達の悪口を言う*	3.34±1.22	看護学科 N=42	2	7	8	17	8	3.52±1.13	n. s	
		看護学科以外 N=187	20	20	74	30	43	3.30±1.24		
33 学内で先生の悪口を言う*	3.34±1.16	看護学科 N=42	1	7	11	17	6	3.48±1.02	n. s	
		看護学科以外 N=187	18	21	71	40	37	3.30±1.20		
34 学校行事(大学祭、スポーツフェスティバル、etc)に参加する	1.74±0.87	看護学科 N=42	24	11	6	1	0	1.62±0.83	n. s	
		看護学科以外 N=187	91	55	37	2	2	1.76±0.88		
35 学校行事(大学祭、スポーツフェスティバル、etc)に興味がない*	2.89±0.99	看護学科 N=42	3	6	24	6	3	3.00±0.94	n. s	
		看護学科以外 N=186	23	25	107	17	14	2.86±1.00		
36 自治会活動に興味がある	2.53±0.97	看護学科 N=42	8	6	23	4	1	2.62±0.99	n. s	
		看護学科以外 N=184	39	31	99	11	4	2.51±0.96		
37 いじめをする*	3.53±0.48	看護学科 N=42	5	4	6	6	21	3.81±1.45	n. s	
		看護学科以外 N=184	30	16	50	16	73	3.46±1.48		
38 いじめをされる*	3.31±1.39	看護学科 N=41	5	4	16	3	13	3.37±1.36	n. s	
		看護学科以外 N=185	30	15	66	17	57	3.30±1.41		
39 大学所有の物品を盗む*	3.61±1.53	看護学科 N=42	4	3	5	2	28	4.12±1.40	0.012	
		看護学科以外 N=185	31	21	40	12	81	3.49±1.54		
40 教職員からの注意はあまり気にしない*	3.24±1.25	看護学科 N=42	5	0	17	14	6	3.38±1.13	n. s	
		看護学科以外 N=185	20	34	59	32	40	3.21±1.27		

■は、中央値3 *は逆転項目

大学生生活に関する40項目の行動への認識(5段階)の実数、平均値±標準偏差、看護学科と看護学科以外の平均値±標準偏差、Mann-Whitney U検定結果

(2) 慣習 (表2-2)

「52. 出会い系サイトで知り合い実際会う」など11項目が中央値3であった。看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、看護学科では「45. 禁煙の場所で、喫煙をする」「55. 道路にゴミを捨てる」など5項目が平均値4点以上であった。一方で、「41. 電車やバスなどの優先席付近で携帯電話での通話をする」「56. 行列に割り込みをする」など8項目で有意差がそれぞれみられた。

(3) 家庭生活 (表2-3)

「73. 親を無視する」など2項目が中央値3であった。看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、看護学科では「74. 理由を偽って親からお金をもらう」「77. 親との約束を破る (暴言を吐く)」など4項目が平均値4点以上であった。一方で「65. 家の手伝いをする」「74. 理由を偽って親からお金をもらう」など8項目で有意差がそれぞれみられた。

(4) 法律 (表2-4)

中央値3の項目はなかった。看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、看護学科では「80. 自転車で信号を無視する」「81. 原付バイク (二輪自動車) で信号無視をする」「82. 自動車で信号無視をする」「84. 自転車で2人乗りをする」「88. 携帯電話を使用しながら自転車で乗る」「93. 道路でポイ捨てをする」「94. 人の物を盗む (自転車・教科書等)」「95. 万引きをする」などの11項目が平均値4点以上であった。一方で、「84. 自転車で2人乗りをする」「88. 携帯電話を使用しながら自転車で乗る」など10項目で有意差がそれぞれみられた。

(5) その他 (表2-5)

中央値3の項目はなかった。看護学科と看護学科以外の2群に分けたところ、看護学科において平均値が4点以上であり、有意差がみられた。

表 2-2 他者の行動への認識 慣習

項目	全体 N=236	行動への認識 N					平均値±標準偏差	P値	
		とても良い	やや良い	普通	やや悪い	とても悪い			
41 電車やバスなどの優先席付近で携帯電話での通話をする*	3.66±1.32	看護学科 N=41	0	2	7	8	24	4.32±0.93	0.000
		看護学科以外 N=185	23	20	37	48	57	3.52±1.36	
42 電車やバスなどの優先席で、高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児連れの人に席を譲る	1.80±0.98	看護学科 N=41	28	5	5	3	0	1.59±0.97	n. s
		看護学科以外 N=185	91	42	44	5	3	1.85±0.98	
43 電車やバスなど公共の場で飲食をする*	3.20±1.04	看護学科 N=41	1	4	16	16	4	3.44±0.90	n. s
		看護学科以外 N=185	15	29	72	51	18	3.15±1.06	
44 電車やバスなど公共の場で化粧をする*	3.44±1.14	看護学科 N=41	0	2	12	18	9	3.83±0.83	0.028
		看護学科以外 N=185	19	19	55	61	31	3.36±1.18	
45 禁煙の場所で、喫煙をする*	3.54±1.51	看護学科 N=40	3	4	6	2	25	4.05±1.38	0.011
		看護学科以外 N=181	32	20	37	23	69	3.43±1.52	
46 禁煙区域以外での喫煙をする	3.16±1.35	看護学科 N=40	2	4	19	3	12	3.48±1.18	n. s
		看護学科以外 N=181	33	22	64	20	42	3.09±1.38	
47 歩き煙草を注意する	2.67±1.35	看護学科 N=40	9	8	12	5	6	2.78±1.35	n. s
		看護学科以外 N=182	51	30	60	13	27	2.64±1.36	
48 禁煙区域で喫煙している人に注意をする	2.45±1.21	看護学科 N=40	13	9	11	5	2	2.35±1.21	n. s
		看護学科以外 N=181	53	30	75	8	16	2.47±1.21	
49 インターネット上でプロフィールを公開する*	3.21±0.88	看護学科 N=40	1	2	29	6	2	3.15±0.70	n. s
		看護学科以外 N=181	10	13	101	40	17	3.23±0.92	
50 インターネット上で他人を中傷する書き込みをする*	3.71±1.27	看護学科 N=40	0	1	12	8	19	4.13±0.94	0.038
		看護学科以外 N=181	19	12	54	31	65	3.61±1.31	
51 出会い系サイトに登録する*	3.34±1.21	看護学科 N=39	1	1	18	11	8	3.62±0.94	n. s
		看護学科以外 N=179	24	11	73	33	38	3.28±1.25	
52 出会い系サイトで知り合い実際会う*	3.32±1.19	看護学科 N=39	1	1	18	12	7	3.59±0.91	n. s
		看護学科以外 N=180	25	9	76	34	36	3.26±1.24	
53 隣近所の人にあいさつをする	1.84±0.91	看護学科 N=39	23	8	7	1	0	1.64±0.87	n. s
		看護学科以外 N=178	78	50	44	5	1	1.88±0.92	
54 約束の時間を守る	1.66±0.89	看護学科 N=40	30	6	3	0	1	1.40±0.84	0.013
		看護学科以外 N=181	95	51	27	7	1	1.72±0.90	
55 道路にゴミを捨てる*	3.61±1.36	看護学科 N=39	1	2	6	8	22	4.23±1.06	0.001
		看護学科以外 N=181	24	20	40	40	57	3.48±1.38	
56 行列に割り込みをする*	3.61±1.34	看護学科 N=40	0	5	6	8	21	4.13±1.09	0.008
		看護学科以外 N=181	23	16	50	32	60	3.50±1.37	
57 夜遊びをする*	3.18±0.93	看護学科 N=40	3	1	27	5	4	3.15±0.92	n. s
		看護学科以外 N=181	10	19	97	38	17	3.18±0.94	
58 深夜番組をよくみる*	2.94±0.80	看護学科 N=40	3	3	31	2	1	2.88±0.72	n. s
		看護学科以外 N=181	10	27	114	22	8	2.95±0.82	
59 翌日の朝まで遊ぶ*	3.10±0.78	看護学科 N=40	3	3	25	8	1	3.03±0.83	n. s
		看護学科以外 N=181	6	18	115	34	8	3.11±0.77	
60 借りた物は必ず返却する	1.77±0.97	看護学科 N=40	28	3	9	0	0	1.53±0.85	n. s
		看護学科以外 N=181	92	41	39	6	3	1.82±0.99	
61 よく物を借りる*	2.98±0.84	看護学科 N=40	0	3	27	10	0	3.18±0.55	n. s
		看護学科以外 N=181	16	23	103	34	5	2.94±0.88	
62 マナーやモラルに配慮する	1.81±0.95	看護学科 N=40	28	5	7	0	0	1.48±0.78	0.010
		看護学科以外 N=181	82	51	39	6	3	1.88±0.97	

■は、中央値3 *は逆転項目

大学生活に関する22項目の行動への認識(5段階)の実数、平均値±標準偏差、看護学科と看護学科以外の平均値±標準偏差、Mann-Whitney U検定結果

表 2-3 他者の行動への認識 家庭生活

項目	全体 N=236		行動への認識 N					平均値± 標準偏差	P 値
			とても良い	やや良い	おぼろしい	やや悪い	とても悪い		
63 あいさつをする	1.57±0.79	看護学科 N=41	30	5	6	0	0	1.41±0.74	n. s
		看護学科以外 N=183	107	44	30	2	0	1.60±0.80	
64 家庭のルールを守る	1.66±0.83	看護学科 N=41	28	6	7	0	0	1.49±0.78	n. s
		看護学科以外 N=182	97	45	38	2	0	1.70±0.84	
65 家の手伝いをする	1.70±0.87	看護学科 N=40	31	4	5	0	0	1.35±0.70	0.003
		看護学科以外 N=181	92	42	43	4	0	1.77±0.89	
66 手洗い・うがいをかかさない	1.80±0.92	看護学科 N=40	25	8	7	0	0	1.55±0.78	n. s
		看護学科以外 N=182	90	33	54	5	0	1.86±0.94	
67 一日3食ご飯を食べる	1.80±0.96	看護学科 N=41	27	5	7	2	0	1.61±0.95	n. s
		看護学科以外 N=183	92	36	47	8	0	1.84±0.96	
68 食事内容 (バランス、量) に気をつけている	1.83±0.94	看護学科 N=41	26	4	10	1	0	1.66±0.94	n. s
		看護学科以外 N=182	85	42	48	7	0	1.87±0.94	
69 家族を大切に (思う)	1.58±0.78	看護学科 N=41	30	6	5	0	0	1.39±0.70	n. s
		看護学科以外 N=183	105	43	35	0	0	1.62±0.79	
70 自分の部屋の片づけは自分でする	1.68±0.81	看護学科 N=40	29	7	4	0	0	1.38±0.67	0.080
		看護学科以外 N=182	90	50	41	1	0	1.74±0.82	
71 身体を動かすよう心がけている	1.82±0.93	看護学科 N=40	26	5	8	1	0	1.60±0.90	n. s
		看護学科以外 N=182	84	46	46	5	1	1.86±0.93	
72 門限を守る	1.94±0.95	看護学科 N=41	21	7	12	1	0	1.83±0.95	n. s
		看護学科以外 N=181	76	44	54	6	1	1.96±0.95	
73 親を無視する*	3.47±1.21	看護学科 N=40	1	0	13	14	12	3.90±0.93	0.018
		看護学科以外 N=184	20	18	61	42	43	3.38±1.25	
74 理由を偽って親からお金をもらう*	3.63±1.39	看護学科 N=40	3	0	7	4	26	4.25±1.21	0.001
		看護学科以外 N=183	24	15	56	23	65	3.49±1.39	
75 無断で親のお金を持ち出す*	3.73±1.45	看護学科 N=40	3	0	7	2	28	4.30±1.22	0.004
		看護学科以外 N=182	25	14	51	9	83	3.61±1.46	
76 家出をする*	3.26±1.26	看護学科 N=40	3	1	17	7	12	3.60±1.17	0.044
		看護学科以外 N=182	24	14	83	27	34	3.18±1.21	
77 親との約束を破る (暴言を吐く)*	3.53±1.27	看護学科 N=40	1	1	9	12	17	4.08±1.00	0.002
		看護学科以外 N=182	21	16	64	30	51	3.41±1.30	
78 家族に暴力をふるう*	3.53±1.28	看護学科 N=40	2	0	9	6	23	4.20±1.11	0.016
		看護学科以外 N=182	24	16	55	6	81	3.41±1.30	

■は、中央値3 *は逆転項目

家庭生活に関する16項目の行動への認識(5段階)の実数、平均値±標準偏差、看護学科と看護学科以外の平均値±標準偏差、Mann Whitney U 検定結果

表 2-4 他者の行動への認識 法律

項目	全体 N=236		行動への認識 N					平均値± 標準偏差	P 値
			とても良い	やや良い	おぼろしい	やや悪い	とても悪い		
79 徒歩で信号を無視する*	3.67±1.07	看護学科 N=40	0	1	11	19	9	3.90±0.78	n. s
		看護学科以外 N=182	9	19	49	61	44	3.41±1.30	
80 自転車で信号を無視する*	3.74±1.09	看護学科 N=40	0	1	10	17	12	4.00±0.82	n. s
		看護学科以外 N=181	10	17	44	60	50	3.68±1.14	
81 原付バイク (二輪自動車) で信号無視をする*	3.73±1.33	看護学科 N=40	1	1	9	8	21	4.18±1.04	0.029
		看護学科以外 N=181	17	22	45	23	74	3.64±1.37	
82 自動車で信号無視をする*	3.70±1.44	看護学科 N=40	2	2	6	6	24	4.20±1.19	0.018
		看護学科以外 N=181	25	19	40	18	79	3.59±1.47	
83 自転車で道路の右側を走る*	3.51±1.02	看護学科 N=40	0	0	14	19	7	3.83±0.71	0.048
		看護学科以外 N=181	11	17	64	59	30	3.44±1.07	
84 自転車で2人乗りをする*	3.69±0.93	看護学科 N=40	0	0	10	19	11	4.03±0.73	0.020
		看護学科以外 N=181	6	14	51	82	28	3.62±0.95	
85 自転車で並走する*	3.65±0.93	看護学科 N=40	0	0	13	17	10	3.93±0.76	n. s
		看護学科以外 N=181	9	10	52	86	24	3.59±0.96	
86 傘をさして自転車に乗る*	3.65±0.91	看護学科 N=40	0	1	13	17	9	3.85±0.80	n. s
		看護学科以外 N=180	4	16	55	77	28	3.61±0.93	
87 自転車で歩道を走行する*	3.50±0.90	看護学科 N=40	0	1	17	16	6	3.68±0.76	n. s
		看護学科以外 N=181	6	17	66	72	20	3.46±0.93	
88 携帯電話を使用しながら自転車に乗る*	3.69±1.08	看護学科 N=40	0	1	8	18	13	4.08±0.80	0.018
		看護学科以外 N=181	10	18	48	63	42	3.60±1.11	
89 携帯電話を使用しながら車の運転をする*	3.74±1.33	看護学科 N=40	1	1	8	6	24	4.28±1.04	0.005
		看護学科以外 N=181	18	20	44	29	70	3.62±1.36	
90 人家や商店の壁に落書きをする*	3.74±1.47	看護学科 N=40	1	3	5	2	29	4.38±1.13	0.002
		看護学科以外 N=182	27	18	39	14	84	3.60±1.50	
91 未成年者 (20歳未満) が飲酒をする*	3.64±1.10	看護学科 N=40	1	0	17	11	11	3.78±0.95	n. s
		看護学科以外 N=182	13	10	56	59	44	3.61±1.13	
92 未成年者 (20歳未満) が喫煙をする*	3.66±1.21	看護学科 N=40	0	0	12	15	13	4.03±0.80	n. s
		看護学科以外 N=181	19	13	47	48	54	3.58±1.27	
93 道路でポイ捨てをする*	3.73±1.32	看護学科 N=40	1	1	7	7	24	4.30±1.02	0.002
		看護学科以外 N=182	22	14	41	42	63	3.60±1.35	
94 人の物を盗む (自転車・教科書等)*	3.81±1.47	看護学科 N=40	0	0	5	3	32	4.68±0.69	0.000
		看護学科以外 N=183	28	18	37	13	87	3.62±1.52	
95 万引きをする*	3.77±1.52	看護学科 N=40	0	0	5	3	32	4.68±0.69	0.000
		看護学科以外 N=183	32	18	36	7	90	3.57±1.58	

*は逆転項目

法律に関する17項目の行動への認識(5段階)の実数、平均値±標準偏差、看護学科と看護学科以外の平均値±標準偏差、Mann Whitney U 検定結果

表 2-5 他者の行動への認識 その他

項 目	全体 N=236	行動への認識 N					平均値± 標準偏差	P 値		
		看護学科 N=40	看護学科以外 N=176	とても良い	やや良い	あまり良い			やや悪い	とても悪い
96 マナーやモラルは自分一人くらい守らなくてもいいと思う*	3.62±1.33			0	1	12	9	18	4.10±0.93	0.022
				21	18	51	22	64	3.51±1.38	

*は逆転項目

その他に関する 1 項目の行動への認識 (5 段階) の実数、平均値±標準偏差、看護学科と看護学科以外の平均値±標準偏差、Mann Whitney U 検定結果

5. 考 察

1) 保健医療福祉系学生の規範意識

全員が友人への挨拶や演習時の身だしなみなど接遇、提出物を期限内提出など決められたルールに関する自己体験をしていた。接遇は、対人援助をする上での基盤であり、対象者との信頼関係構築に左右することから保健医療福祉分野の専門家として重要な態度であるといえる。また、90%以上の学生は接遇以外においても、マナーやモラルに配慮しながら、家庭や学校というコミュニティで体験したルールを肯定的にとらえ、行動しており、規範意識が高いといえる。

マナーやモラルについては多くの学生が配慮しながら生活しており、「自分一人くらい守らなくてもよい」は少ないが、授業出欠や参加態度 (私語、メール、集中できない)、自転車や自動車に関する交通違反や逸脱行為を60~70%が体験していた。規範意識は、それに基づく行動の結果を自己がどのようにとらえるかによって変わるため¹⁷⁾、「望ましくない」という行動への認識が上手に働かなければ、基準がずれ、自己中心的で他者配慮や規律を欠く迷惑行為に発展する恐れがある。

親に対する態度 (無視する、偽ってお金をもらう、約束を守る)、公共マナー (禁止場所での飲食、喫煙行為)、夜間生活の乱れ (夜遊びや朝まで遊ぶなど)、インターネット上の個人情報公開や出会いに対する行動については、「どちらともいえない」を選択する学生の割合が多かった。青年期はそれまでの判断の拠り所としていた親や親のもつ規範から離れるような力が働くため¹⁹⁾、過去において家庭や学校生活の中で獲得した基準を否定する可能性がある。中等教育までに奨励されている行動は、多くの人によって必要とみなされた結果、支持や遵守されていることから、学生自身が何を最優先すべきか、普遍的な価値や社会的規範をもって道徳的判断ができるように方向づける必要がある。

2) 看護学生の特徴

看護学生は、看護学生以外と比べて、公共機関に設定された優先席付近や自転車、自動車運転時の携帯電話マナー、喫煙マナーなど公共性に関する反社会的行為を「悪い」と認識する傾向がみられた。ゴミについては、望ましくないと認識しているポイ捨て行動はせず、多くはないが落ちているゴミを拾い、所定の場所へ捨て直すという蔓延防止体験をしていた。

しかし、このような行動はすべてにおいてみられず、禁止されている場所 (教室・実習室・パソコン室) での飲食体験をしている者もいる。飲食制限場所の説明は、入学時のガイダンスのほか、学生便覧に明記してあるが、学生の意識は、新生活への適応や看護師になるという学習意欲に主眼が置かれ、学生便覧を熟読しなくても大学生生活に適応できていることから軽視がこのような逸脱行為につながっている可能性もある。

インターネット上への個人情報公開については、学科間の差は認められなかったが看護学生の方が体験数は多い結果となった。twitter上のマナーや行動規範は個人の自由意思に任せられたゆるやかなルールのようなものがあるが、個人情報取り扱い、特に直接的に情報を開示することには、「すべきでない」とする意識が広く共有されており、実際にしていない人が多いという報告もある¹²⁾。今回の調査では、体験時期と行動認識の関連性を明らかにすることはできないが、急速に進む高度情報社会において、twitterなどのソーシャルメディアサービスに対する規範意識をはぐくむ教育が十分にされていない可能性を考えると、社会の変化に合わせた新しい基準を獲得できるように支援していくことが重要である。

3) 高等教育における規範意識教育

対人援助を基盤とする職業人を目指している学生から「人見知りである」「人前で話すことができない」などコミュニケーションに関する悩みを聞く機会が多い。ソーシャルメディアサービスの普及により

人々は直接対面することなく、人との関わりを深め、容易にコミュニティを拡大できる現代社会では個人や社会の価値が多様化し、正しい規範がわかりづらく、混乱が逸脱行為を生み出している可能性は否定できない。

万引きや未成年の喫煙は明確な社会の善悪により守らなければならない規範であり、反社会的規範行為には、外部圧力により未成年喫煙防止法、窃盗罪による罰則が下されるため罰則回避のためにも規範遵守が前提となる。しかし、罰則がない、または罰則を受ける頻度が少ないため迷惑行為に対しては、自分一人くらい守らなくてもよいと認識がなくても規範遵守に対する自己基準が緩む傾向にある。18歳人口の減少、大学数の増加などから大学全入時代を迎え、中等教育と高等教育の非接続化が進むなか、初等教育段階からその時の状況や集団の種類や性質で影響されない、善悪に関する普遍的な価値を高等教育においても継続的に共有させ、醸成できるまで教育が必要である。

自転車や自動車に関する交通ルールに関しては、法改正に伴う新たなルールや情報を得ていないことが逸脱体験として表面化する可能性もあり、価値の共有だけにとどめず、学生自身が正しい情報を自主的に更新し、行動につなげることができる規範意識を養えるようにすることが重要だと考える。

専門職従事者は、それぞれの職能団体に職業倫理を定め、社会的役割を果たす上で守るべきルールを明文化しており、保健医療福祉分野を目指す学生は自己の目指す職業的規範意識を同時に高めていくことが求められている。

看護学生の場合、職業コミットメントは入学前から始まり、職業的同一性形成は早期完了型であるが、2年次学生は看護師になるという思いはあっても職業への期待やあこがれが低くなる^{20,21)}。職業倫理を含む規範をはぐくむには、さまざまな体験の一部が意識化され、自己認識に発展するため²²⁾、臨地実習体験が入学後皆無に等しい状況では、体験の中での意味づけは難しい。だからこそ、看護学生が専門職者としての意識や規範を内在化させる臨地実習が本格的に始まる前に社会規範意識の醸成が重要であると考えられる。

特に91.1%の看護師は基礎教育において倫理に関する学習を既修していても知識はなく²³⁾、看護教育者の80%以上が十分な教育方法、教材、情報がないと看護倫理教育に悩んでいる²⁴⁾。教員は、職業倫理獲得に限らず、医療の進歩にあわせて多様化する価値観に対応できるよう教員自身の社会規範意識や職業規範の向上や充実が必須であると考えられる。

6. 研究の限界

本調査は、保健医療福祉分野の専門家を目指す学生の規範意識、看護職を目指す学生の規範意識の特徴を明らかにすることができた。しかし、回収率が低く、1大学の限られた調査であることなどからデータに偏りが生じている。また、調査項目が多いため回答に15分程度の時間を要したが、体験の継続性や時期の把握などは網羅できていない。

今後は、規範意識の形成に影響する個人の価値判断やその価値判断への影響因子などを質的に明らかにした上で、質問項目を精選に努めるとともに、態度形成に影響すると思われる規範意識のありようを検討し、保健医療福祉を支える高等教育における規範意識教育の充実を目指したい。

7. 謝 辞

A大学保健医療福祉学部2年生の皆様には深謝いたします。

8. 引用文献

- 1) 新村出編. 広辞苑六版机上版あーそ. 岩波書店, 2008 : 698
- 2) 藤澤文. 青少年をめぐる諸問題 (調査資料) - 規範意識はなぜ変容するのか?. 国立国会図書館調査及び立法考査局 2009 : 221-236
- 3) 高木彩. 知覚された社会規範と社会的迷惑行為: 記述的規範と命令的規範の影響力に関する比較と規範-行動間の因果関係の検討. 応用心理学研究2013 ; 38 (3) : 239-250
- 4) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター. 生徒指導資料第3集規範意識をはぐくむ生徒指導体制-小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ-. 2008 : 2-28
- 5) 廣岡秀一, 横矢祥代. 小学生・中学生・高校生の規範意識と関連する要因の分析. 三重大学教育学部研究紀要2006 ; 57 : 111-120
- 6) 上原千恵, 野津有司, 久保 元芳, 佐藤幸, 渡部基. 高校生における危険行動に関わる規範意識尺度の信頼性と妥当性の検討. 学校保健研究2008 ; 50 (3) : 159-165
- 7) 林幸克. 高校生の規範意識に関する基礎的研究. 岐阜大学教育学部研究報告人文科学2013 ; 61 (2) : 241-253
- 8) 久世敏雄, 和田実, 暁斉, 浅野敬子, 後藤宗理, 二宮克己, 宮沢秀次, 宗方比佐子, 内山伊知郎, 平石賢二, 大野久. 現代青年の規範意識と私生活主義について. 名古屋大学教育学部紀要1988 ; 教育心理学科35 : 21-28
- 9) 牧亮太, 宮木景子, 湯澤正通. 大学生の約束意識と規範的態度. 広島大学心理学研究2010 ; 10 : 81-88
- 10) 中村慎佑, 西迫成一郎, 森上幸夫, 桑原尚史. 社会的規範からの逸脱行動の様相と類型-社会的規範の普遍性と可変性に関する研究 (1) -. 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」2008 ; 29 : 55-68
- 11) 出口拓彦, 吉田俊和. 大学の授業における私語の頻度と規範意識・個人特性との関連-大学生活への適応という観点から

46 大学生の規範意識－看護学科の特徴－

- の検討－. 社会心理学研究2005 ; 21 (2) : 160-169
- 12) 水沼友宏, 菅原真紀, 池内淳. 大学生のTwitterにおける行動規範に関する分析. 情報社会学会誌2013 ; 8 (1) : 23-37
 - 13) 戸塚智美, 澤田和美, 鈴木恵, 椎野雅代. 授業中における携帯機能の利用頻度と関連性の検討. 第44回日本看護学会論文集看護管理2014 ; 357-360
 - 14) 藤澤文. 大学生の規範意識、道徳的認知、行動基準の関連. 鎌倉女子大学紀要2013 ; 20 : 11-19
 - 15) 水野里恵, 山形恭子. 脱慣習水準のモラル思考法の発達に「教育」が及ぼす影響－DIT-2 (Defining Issues Test 2) 測定による青年のモラル判断基準に関する研究－. 中京大学心理学研究科・心理学部紀要2009 ; 9 (1) : 1-7
 - 16) 井上和久, 平野裕子, 山本英子, 新井恵, 黒澤岳博. 保健医療福祉学部大学生における規範意識に関する調査－理学療法学科学生について－. 理学療法－臨床・研究・教育2014 ; 21 : 59-65
 - 17) 新井恵, 山本英子, 平野裕子, 井上和久. 保健医療福祉系大学における未成者の規範意識と飲酒経験の関連. 保健医療福祉科学2013 ; 3 : 23-32
 - 18) 山本英子, 井上和久, 新井恵, 平野裕子, 黒澤岳博. 保健医療福祉系大学学生における規範意識. 埼玉県立大学紀要. 2013 ; 15 : 53-64
 - 19) 山岸明子. 現代青年の規範意識の稀薄性の発達の意味. 順天堂医療短期大学紀要2002 ; 13 : 49-58
 - 20) 岡本裕子. アイデンティティ生涯発達論の射程. ミネルヴァ書房, 東京2002 : 250
 - 21) 室津史子, 贅育子, 重本津多子, 今村美幸, 藤原理恵子. 看護学生の看護師に対するイメージおよびキャリアコミットメント－学年による比較－. ヒューマンケア研究学会誌2014 ; 5 (2) : 37-44
 - 22) 梶田叡一. 自己意識の心理学第2版, 東京大学出版会, 東京1988 : 78-94
 - 23) 水澤久恵. 看護師の倫理に関する知識と倫理教育機会の有無についての実態調査. 第41回日本看護学会論文集看護教育2011 : 87-89
 - 24) 中尾久子. 看護教育者の倫理問題の認識と倫理教育との関連性. 九州大学医学部保健学科紀要2007 ; 8 : 69-76